

優秀賞**言葉の選択**

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 3年
岩村 日菜子

現在、様々なSNSが普及している。実際私もそれらを利用してあらゆる情報を取り入れている。しかし、情報を手軽に取り入れることができるという反面、些細なことでも個人の人権を脅かしかねないという危険な一面もある。

以前、友達に私が写っている写真をSNSに載せられたことがある。私はあまりその写真を他人には見られたくなかったのだが、その投稿には「いいね！」の数、つまり、その写真を絶対に見た人が百人以上もいた。友達は悪意なく載せたのであろうが、無許可で載せられた私はとても嫌な思いをした。また、その写真を見た誰かがその写真を共有するためにスクリーンショットをしていたりしないか、とても不安だった。

SNSでの人権被害は、個人情報を読まれるといった事だけではなく、嘘の噂を流されたり、悪口を書き込まれたりするといった事も含まれる。嘘の噂を流されることで行きたい学校や職場に行けなくなることがある。その人の人生が些細な書き込みのせいで変わってしまうのだ。二〇一八年度の日本でのSNS利用者数は七五二三万人である。こんなにもたくさんの人が利用しているのだから、誰かによって人権が脅かされている人も少なからずいるだろう。少しでも被害者を減らすために、一人一人が何かを書き込んだり投稿する際にモラルと思いやりを意識する必要があると思う。

SNSに一度載せたことは一生消すことができないが、それは言葉も同じだと思う。悪口も一生消すことができないのだ。不意に言った言葉が相手の人生を狂わせる場合だってある。

私は小学生の頃、とても仲の良かった子たちに悪口を言われたり変な噂を流されたりしたことがある。とても親しく気が許せる仲だったのに、悪口を言われていると知った途端前のように接することができなくなった。何か話しかけられても愛想笑いしか出来なかった。私の中からこの先この嫌な記憶が消えることはないと思う。そのくらい毎日が辛く、失ったものが大きかった。悪口は信頼関係を壊し、友情を奪うのだ、と実感した。だから、たった些細な一言でもとても深い傷としてその人の中に残り続けることは十分に起こり得る。

悪口をSNS上や友人間で言われることによって「自殺」という最悪の選択をする人もいる。平成三十年度の自殺者数は二万八四〇人だ。そのうち未

成年者の自殺の原因、動機は「学校問題」が最多である。また、そのうち最も多い原因は「いじめ」である。実際、「言葉の暴力」によって若くで亡くなっている人がいるのである。自殺することで、その人自身の人生は勿論その人の家族の人生も奪われるのである。いじめていた人も自分の言葉が人を殺した、という辛い事実を受け入れなければならない。多くの人の人生が狂うのである。

言葉は本当に怖い。凶器にもなれば、温かい言葉や励ましの言葉となり人をやさしく包みこむこともある。つまり言い方次第で言葉のもつ性質を変えることができるのだ。自分が発する一言一句に責任を持たなければならない。そうすることで誰かを傷つけることが少なくなると思う。

SNSを使うにあたって投稿したり何か書き込んだりする時には、本当の情報なのかなどをしっかり見極め、誰かの人権がそれにより脅かされていないかどうかをじっくり考える必要があると思う。私は槍のような人を傷つける言葉ではなく、綿菓子のような、やわらかく人を包みこむ言葉を積極的に使っていこうと思う。